



No. 105

新館紹介

新見公立短期大学
附属図書館

小川政保

「新見」というとどんなイメージなんでしょうか。「雪」とか、「田舎」、あるいは「千屋牛」などの特産物を想像される方もいらっしゃると思います。

平成二十年四月、「新見公立短期大学附属図書館」は、新たなスタートを切りました。それは、学生、教職員のためだけの図書館ではなく、一般市民も利用できる図書館としてのスタートです。本学は看護学科、幼児教育学科、地域福祉学科、そして地域看護学専攻科を有しており、当館の所蔵資料も学科関係の図書がほとんどです。しかし、地域市民の皆さんにとって、本学の重要な研究教育分野でもある看護医療、高齢者

介護、福祉、健康作り、幼児教育、子育てなどの分野は大きな関心事であり、そういった意味で、一般開放は市民にとっても大変興味深く、有意義な試みであるといえます。

また、ICタグによる貸し出し、返却のシステムを導入したことも大きなニュースです。ICタグを使った新システムでは、利用者は自動貸出しシステムを利用して自由に借りることが出来ます。利用者は借りた本を一度に十五冊程度読み取り可能というアンテナの上に置き、タッチパネルを操作します。また、図書利用カードには、その都度、自分が借りている本のタイトルが返却予定日とともに印字されます。

また館内には、大学図書館でありながら、地域に開放した図書館であるという姿を現したものがあります。それは、「ねころんぼコーナー」です。

このコーナーは、絵本、大型絵本、紙芝居、子ども向け読みもの、図鑑などの専門のコーナーであり、その



名のとおり、子どもがごろごろねろがって、リラククスして本の世界に入り込めるようクッション性の高いマットも敷いています。紙芝居台もあり、先日も司書による大型絵本の読み聞かせを行いました。

当館は、新見公立短期大学の敷地内に新築された「新見市学術交流センター」内にあり、三階建築のうち、一、二階部分が図書館部分になっています。また、三階部分には、「子育てカレッジ」が開かれています。

これは、行政、大学、市民が一体となって取り組んでいるもので、三階研修室を利用した子育てひろばには、

本学幼児教育学科指導で取りそろえた遊具が充実しており、親子の交流の場として、親子が生き生きとして利用しています。毎週金、土曜日には専任の保育士が勤務し、たくさん地域の親子が利用しています。教員による子育て相談や研修も行われており、地域の子育て情報の発信地として期待されています。

また、このほか三階部分にはスクリーン等を備えた二七〇人が座れる交流ホール、四十人程度で利用できる研修室が二室あり、予約の上使用することが出来ます。

インターネットなど、誰でも簡単に、そして早く、さまざまな情報が手に入る高速情報時代の現在、図書館の存在意義が問われているような気がします。しかし、インターネットで必要な情報は手に入れることができても、情報のためだけではない何かがあると思います。

「新見公立短期大学附属図書館」であると同時に「新見市学術交流センター図書館」という名称をもつ当館には、四月のオープンから学生、教職員のほか、多くの一般市民の方に来ていただいています。また、当館はオープンと同時に「岡山県図書館横断検索システム」にも参加し、県内の参加館と相互に貸借が可能になりました。県立図書館を筆頭にした

協力体制は利用者にとっても大変魅力だと思えます。

春はさくらの香りがし、夏は新緑と蝉の声、秋は稲穂が実り、冬は真っ白な雪景色。

大学教育と地域がともに歩み、育つ新見公立短期大学附属図書館です。

ベネッセ教育

情報図書館の紹介

加藤 将まさる

ベネッセ教育情報図書館は、株式会社ベネッセコーポレーションの企業内専門図書館です。

岡山図書館（岡山本社）及び東京図書館（東京本部・多摩市）の二つの拠点を持っておりますが、全国の拠点からWEBによる検索・貸出しができるようになっており、ベネッセグループ全体の業務支援をめざしております。

●ベネッセコーポレーションの事業領域

「Benesse (ベネッセ)」とは「bene (よく)」+「esse (生きる)」を意味しており、「教育」「語学」「生活」「介護」の分野で「一人ひとりがよく生きる」を支援する事業を行っています。

「教育」：幼児～高校生を対象とした通信教育教材「こどもちゃれんじ」「進研ゼミ」や「進研模試」などを中心に、学校外教育および学校や先生方の支援を行っています。

「語学」：ベルリッツジャパン(株)サイマル・インターナショナルなどによる語学教育事業、翻訳事業、通訳事業、および総合的な英語力を測定するオンラインテスト-GTEC (Global Test of English Communication) などを行っています。

「生活」：「たまごクラブ」「ひよこクラブ」「サンキュー」などによる家事や育児支援、「いぬのきもち」「ねこのきもち」などのペット雑誌発行など、情報・交流・学びなど多様な面で支援を行っています。

「介護」：連結子会社である(株)ベネッセスタイルケアにより、入居介護サービス事業を中心に、在宅介護サービス事業、介護人材育成、医療・介護人材派遣事業を実施しています。

●図書館の規模・蔵書構成

現在の所蔵図書数は岡山図書館・二七〇〇一冊、東京図書館・四四二二五冊と両館合わせて七一二六冊（二〇〇八年六月現在）となっています。企業内図書館としては中規模な図書館ではありますが、ニーズに合わせた蔵書選択などにより特徴を

出しております。

蔵書の構成は、事業の中心である「教育」や「ビジネス関連」の分野を充実させております。

加えて、「進研ゼミ」など通信教育の各種教材、「たまごクラブ」「ひよこクラブ」などの雑誌や書籍、また、ベネッセの前身である福武書店時代に出版された書籍や雑誌なども所蔵しております。



●利用形態

ベネッセコーポレーションの社員のみならず、ベネッセグループ各社の多くの社員に利用されています。（一般公開はしておりません）

利用者が実際に足を運ぶ来館の利用に加えて、インターネットからの

利用も多く、ベネッセグループのイントラネット上のWEBOPACでの検索、貸出図書の予約などを行っています。

また、予約された図書は「定期便」と呼ばれる独自の配送網を利用し、全国に配送されます。

（例えば、岡山本社の社員が東京図書館に所蔵されている図書をWEBOPACから予約した場合、翌日に「定期便」で社員の手元に届く仕組みになっております。）

●運営体制

東京図書館四名、岡山図書館六名（※「株式会社ベネッセビジネスメイト」に業務委託）のスタッフで運営されています。それぞれの拠点に配置されている事業部門の特徴を踏まえながらの蔵書選択、二館の機能や役割分担などを考慮しながら運営しております。

※岡山図書館では、障がい者雇用の取組みの一環として、二〇〇六年四月から運営業務をベネッセの特例子会社である「株式会社ベネッセビジネスメイト」に業務委託しております。（特例子会社とは、民間企業の中に、障がい者雇用率制度の特例措置として設立された子会社のことです）

ベネッセビジネスメイトでは、一人ひとりが持っている能力・個性を

尊重し、その特性に応じた職場・仕事を提供することで、無くてはならない存在（仲間・メイト）と認めてもらえることを目標として、日々の業務に取り組んでおります。

●最後に

ベネッセ教育情報図書館ならではの「教育」分野での更なる蔵書の充実や、利用者の視点に立ったレファレンスの強化など、更なる情報力強化へ向けて、図書館スタッフ一同、ベネッセらしい情報・サービスの提供ができるよう、日々努力していきたいと考えております。

図書館のディスプレイ① 勝央図書館

家元 瞳

勝央図書館は開館から六年を迎えることができました。そこへ誌面を新しくしたとのことで、図書館ディスプレイを紹介するコーナーのお話が舞い込んできました。

多くの実績ある他館さんではなく、なぜうちの館なのだろうと大きな？（はてな）マークの嵐でした。しかし、勝央図書館を知ってもらおうせっかくのいい機会かもしれない。とにかくやってみよう！」と栄えある第一回目の記事をお受けしました。当館のディスプレイは、今までの

ものを写真で残してないので、ここで取り上げているものは近い季節のものを中心ですが、館内入口と児童のコーナーのディスプレイを職員の手で季節にあわせて毎月変更しています。

館内の掲示コーナーのスペースは五箇所ほどなので、大きなものを飾ることが難しいこともあり、カウンターの柱などのちよつとしたスペースにてぶくろ人形（軍手を使ったもの）や折り紙で作った季節の花、時には本物の落ち葉・まつぼっくりなど自然のものを飾っています。



また、掲示コーナーとは別に、おはなしコーナー・児童コーナーにもディスプレイをしています。

おはなしコーナーには不要になつた食品容器に紙粘土で肉付けをして、表と裏が一体になった太陽と月の絵を描き、風が吹くとくるくると揺れる吊るし飾りを飾り、児童コーナーでは、壁面のほかにアンパンマンやバイキンマンなどのキャラクターを吊り下げ、キャラクターたちが元気に飛んでいます。来館した子どもたちにも大人気です。

来館者の方に季節を感じてもらえるように意識してディスプレイしているので、反応があると職員一同とてもうれしく、同時にやりがいを感じます。

なかでも、手先が器用な職員が作るディスプレイはまさに芸術です。眼をとめた利用者の方から「すごいですね。本物のように見えます。何で作っているのですか？」とお声をいただきます。ついつい近寄って触る方も多く、興味を持たれた方に作り方もお教えすることもありました。立体で作ってあるけれど、壁に貼ったディスプレイの裏側は見えないのにもかかわらず、後ろはどうなっているのかと興味津々の様子でのぞき込む子どももいます。

お正月にはおめでたい立体伊勢えび、中国のお正月風の切り絵。三月には憂いを帯びたりアリエィのある流し雛。四月の新入学の時期にはそ

のまま背負って通学できそうなミニチュアの立体ランドセル、お揃いで手作りのミニ教科書まで作って入れるという手の込みよう。五月には食品容器をリサイクルした端午の節句のよらい兜かぶと。また、クリスマスにはトナカイが引くそりにはプレゼントが山積みで、今にも動いて子供たちのもとに向かいそうな飾りも受付カウンターに登場します。

日々の業務に追われ、また、ディスプレイ予算も限られます。頻繁に新しく作り替えることは難しいため、できるだけ今まで作ったものを活用したり、不要になった食品容器、ダンボール、リボンまたは牛乳パックを使い、時にはおはなし会で作った工作を利用したりと工夫するようにしています。

また、図書館に職場体験学習にいられた生徒さんに壁面を手伝ってもらって作ってもらうこともあり、大



変動かります。

今まで作りためたものに何か新しいものを加えて、さらに新鮮なイメージのものができるように心がけています。

しかし、なにぶんまだまだ未熟ですので、他館さんのディスプレイを参考にさせていただき、いいものが出てくるように勉強していきたいと考えていますので、よいアドバイスをよろしくお願いいたします。

☆個人会員の紹介☆

学校図書館と公共図書館の

連携を考える

「個人会員の紹介」にかえて

永井 悦重



二〇〇八年三月八日、岡山県立図書館で「公共図書館の学校支援を考える」・高校図書館への資料搬送便が」というテーマで日本図書館協会学校図書館部会〔中国ブロック集会〕が開催された。東は東京・新潟から、西は長崎まで約七〇人の参加

があり、学校司書、公共図書館司書、教師、市民など多様であった。

当日のプログラムは以下の通りである。

プログラム

- ① 「高等学校図書館支援の現状と課題」
- ② 「県立図書館資料搬送事業の経緯・概要」
- ③ 「岡山県高等学校図書館の現状」
- ④ 「学校図書館資料搬送事業を用いた実践報告」

(質疑応答・全体情報交換)

詳細は「記録集」を見ていただきたいが、岡山県立図書館の搬送事業の活用によって、各教科の調べ学習や高校生のリクエスト・レファレンスに充実した資料提供ができるようになったこと、また多様で多彩な企画・展示も可能になったことが報告されている。

また、鳥取県では、資料面での支援とともに、「教職員のための図書館活用セミナー」や「出前図書館」を学校司書と県立図書館が協働して実施し、成果をあげている様子が語られた。

これらは岡山県・鳥取県共に専任・専門の学校司書がいて機能する学校図書館が存在してこそその取り組みである。

今回の研究会では県立高校と県立図書館の連携がテーマであったが、岡山市立の小・中・高校と岡山市立図書館との連携も活発に行われている。私自身三年前まで岡山市立の中学校に二六年間学校司書として勤務していたが、環境問題、人権、現代の戦争、職業、世界の地理等々、様々なテーマでの調べ学習などに対応するために岡山市立図書館と県立図書館にずいぶんお世話になった。

現在、すべての岡山市立の小・中・高校が公共図書館から資料的なバック・アップを受けていると思われる。各教科で行われる様々な調べ学習や子どもたちの多様なリクエスト・レファレンスに对应していくには、公共図書館・他校図書館との連携が欠かせない。

多くの市民・県民にとって、公共図書館が知る権利を保障する大事な資料提供の「場」であると同時に、学校図書館をバック・アップしてくれる、なくてはならない存在である。図書館をめぐる動向は、構造的転換期を迎えたといわれているが、この厳しい時代にあってもなんとか知恵を出しあい、市民・県民との協働で、学校図書館も公共図書館も共に充実・発展していくよう力を尽くして行きたいものだ。

ところで、来年二〇〇九年、岡

山市に学校司書が全校配置されて満二〇年を迎える。一九五二年にPTA雇用の第一号学校司書が清輝小学校に配置されて五七年である。一九五〇年代、戦後新設された社会科に関して全国的に公共図書館が利用されたが、岡山市においても同様であった。「岡山市の場合、市立図書館と学校図書館の関係というのは、早くからありました。」(『学校図書館はどうつくられ発展してきたか 岡山を中心に』教育史料出版会 二〇〇一年)と述べておられるのは黒崎義博氏である。私たち学校司書がこの本を編集するに当たって、秋田征矢雄氏と黒崎義博氏にお話をうかがい、コラムも書いていただいたのである。

黒崎氏は、このコラムを、次のような文言で締めくくっておられる。「図書館の役割を考えると、公共図書館と学校図書館を切り離して考えることはできません。図書館と人生の結びつきの始まりが学校図書館なんです。学校図書館の活用で、基本をどれだけ身につけているかが大きいのです。その意味で公共図書館と学校図書館の協力、ネットワークがますます大切になっていきます。公共図書館としても学校図書館を一層バックアップしていきたいと思えます。」

県立図書館の資料運送事業と

高校図書館活動

岡山一宮高等学校

司書 坂野暁子

一、はじめに

岡山一宮高校では、試行が始まった平成十八年度から県立図書館の資料搬送事業を利用し、今年度で三年目を迎えました。平成十八年度が三、四五冊、十九年度が一、〇〇四冊、二十年度が五月末現在で四六五冊の資料を、搬送便によって借用しました。本校でこれらの資料を利用し、どのような取り組みを行ってきたかについて、今回ご報告します。

二、取り組みの内容

①デイベート(保健体育一、二年生)

本校では、一、二年生の保健体育の授業でデイベートを行っています。毎年テーマが変更しますので、毎回膨大な量の資料が新たに必要となり、到底自校の所蔵資料や年度予算では足りません。また、「赤ちゃんポスト」や「バイオ燃料」など時事的なテーマが多く、書籍として出版されていないかたたり、専門書では難しすぎるという問題があります。そのため、以前から自校でも新聞の切り抜きを収集し対応してきましたが、昨年度は県立図書館の雑誌を借用する

という新たな資料提供の試みを行いました。

まず、雑誌記事を検索できるサイトで該当記事の掲載されている雑誌を検索し、その後県立図書館にある雑誌を予約します。蔵書スペースや予算の都合により学校図書館ではなかなか収集保存できない雑誌ですが、県立図書館にあるという安心感が授業を支えてくれます。

②課題研究(理数科)

本校には理数科があり、様々なテーマを個人、グループで研究していく「課題研究」という授業が展開されています。授業で図書館自体を利用するわけはありませんが、授業中、授業外に生徒が資料を探しに図書館へやって来ます。この課題研究では大学レベルの研究内容が求められるため、必要な資料も高価な専門書が多く、県立図書館の豊富な資料が役に立ちます。また、具体的な資料要求になると、資料名だけでは判断しきれないので、様々な資料を用意し、その中から使える資料を生徒と一緒に確認し、提供するようにしています。

③入試(主にAO入試)対策

レポートやプレゼンテーションなど、あらかじめ用意が必要な入試形態が増えている大学受験の現状に対応し、学校図書館では様々なテーマ

の資料が求められるようになってきています。搬送事業開始後は県立図書館で複数の資料を借用し、使える資料は自校でも購入するといった対応が可能になりました。また、本校は県立図書館からそんなに遠いわけではないので、自分で足を運ぶようにも指導しています。これには、高校卒業後も県立図書館や大学図書館を上手に利用してほしい、膨大な資料から自分の求める情報を探し出す経験をしてほしいという思いがあります。

④企画展示

県立図書館の豊富で多様な資料を利用して、自校の資料だけではなかなか実現できなかったような企画も可能になりました。特に展示は、ある程度の数の資料が揃っている方が様になります。本校でも「いちごギャラリー」と称して、学校ではなかなか揃えることができない写真集や絵画集を定期的に交換しながら展示をしたり、学校行事の講演会に合わせて、講演者から借り受けたパネルと図書館資料を組み合わせた展示を企画したりしています。このような企画展示を通して、高校の図書館で県立図書館の資料も利用できることが、生徒や先生方にとって「当たり前」になるような仕掛けを、学校図書館は考えていかなければならな

いと思います。

三、おわりに(課題)

平成二十年度より、搬送事業の全校実施が開始されました。しかし、司書の未配置校や事務兼務校からは、今以上の仕事量はこなせない、といった声が上がっています。資料要求は資料と利用者の仲立ちをする者がいてこそ起こるものです。この条件が整っていないところで搬送事業を開始したとしても、利用の伸びが見られない場合、搬送事業の効果なしとみなされる危険性を含んでいます。また学校側においても、仕事を増やしてまで県立図書館の資料を積極的に借りようとするのか疑問であり、担当者の漠然とした負担感だけが増すのではないかと危惧しています。

そのために、司書のいる高校では、平成十八、十九年度に取り組んだ図書館活動をまとめ、資料搬送事業の活用事例集を作成し、高教研学校図書館部会より県下の高校に配布しました。それぞれの高校でどのような取り組みがされているかを参考に、多くの高校での利用が積極的になればと思います。そして更に、県立図書館がより高校の現状に即した協力体制を整えてくださるよう、高校図書館側からも常に声を出していく必要があると感じています。

岡山県図書館協会活動報告

新会員紹介

- 西山 猛 (岡山県立図書館)
- 竹原 伸之 (岡山県立図書館)
- 高見 直樹 (岡山県立図書館)
- 森川 孝一 (岡山県立図書館)
- 佐藤 賢二 (岡山県立図書館)
- 田中 恵 (岡山県立図書館)
- 小野 道子 (岡山県立図書館)
- 漆坂 圭輔 (岡山県立図書館)
- 川崎由美子 (岡山県立図書館)
- 寺尾 麻里 (岡山県立図書館)
- 内村 暁 (岡山県立図書館)
- 小竹 祐加 (岡山県立図書館)
- 柳田 恭江 (岡山市立中央図書館)
- 西村 絹子 (岡山市立中央図書館)
- 横溝 道江 (岡山市立瀬戸町図書館)
- 小林 正 (津山市立図書館)
- 林田 敏之 (津山市立図書館)
- 有元 康子 (津山市立図書館)
- 小林 まゆ (津山市立図書館)
- 鈴木 翔子 (津山市立図書館)
- 磯部 正二 (玉野市立図書館)
- 草野 美恵 (玉野市立図書館)
- 山室日出夫 (井原市井原図書館)
- 久保 直登 (総社市図書館)
- 草加 昌昭 (備前市立図書館吉水分館)
- 正好 尚昭 (赤磐市立中央図書館)
- 赤枝 美香 (赤磐市立中央図書館)
- 上森 由恵 (赤磐市立中央図書館)
- 藤田 明正 (赤磐市立赤坂図書館)

有澤 勝子 (早島町立図書館)

岡田 清華 (金光図書館)

田中 直美 (金光図書館)

永下山浩子 (くらしき作陽大学・作陽短期大学附属図書館)

景山 理絵 (環太平洋大学附属図書館)

古市絵美子 (岡山市立妹尾中学校)

お詫び

前回一〇四号の「個人会員の紹介」におきまして、石原恵以子様のお名前表記が「似」となっておりました。謹んでお詫びし、訂正いたします。

定期総会報告

平成二〇年度定期総会は五月二十六日に開催されました。主な決定事項をご報告いたします。

新役員

異動・退職による役員の補充で次の方々が選出されました。

参与

石田 善顕

(岡山県教育庁生涯学習課長)

会長

西山 猛 (岡山県立図書館長)

副会長

有澤 勝子 (早島町立図書館長)

本水 昌二 (岡山大学附属図書館長)

理事

宗 巴 (倉敷市立中央図書館長)

杉山 雄史 (津山市立図書館長)

久保 直登 (総社市図書館長)

正好 尚昭 (赤磐市立中央図書館長)

脇 明子 (ノートルダム清心女子大学附属図書館長)

●平成二〇年度図書館功労者表彰

次の方々が表彰されました。おめでとございます。

奥田 鈴美 (倉敷市立中央図書館)

小野 紀子 (倉敷市立船穂図書館)

河口 澄子 (川崎医療短期大学附属図書館)

徳山佳代子 (笠岡市立図書館)

●平成二〇・二一年度企画委員

平成二〇・二一年度の委員に次の方々が会長より委嘱されました。委員長には藤原敏子氏、副委員長には千葉泰次郎氏が選出されました。

藤原 敏子 (岡山県立図書館)

千葉泰次郎 (岡山市立中央図書館)

天野 律子 (倉敷市立中央図書館)

渡辺 陽子 (高梁市立中央図書館)

大森 直子 (備前市立図書館)

徳永 ミカ (和気町立図書館)

松村 謙 (奈義町立図書館)

杉山 陽子 (美作大学・美作短期大学部附属図書館)

坪井 昭訓 (岡山理科大学図書館)

●編集後記

今年度より事務局員となりました内村です。よろしくお願いたしました。

まず、お忙しい中快く原稿依頼を引き受けてくださった皆様、この場を借りて御礼を申し上げます。今回の編集では、図書館での取り組み、図書館同士の連携が現場でどのような効果を発揮しているかなど、頂いた原稿を読んで初めて知ることも多々ありました。まだまだ勉強しなければならぬところが多いなあ、と実感しております。

不慣れな編集でお気付きの点多々あったと思いますが、これからも様々な図書館活動をご紹介できればと思います。なお、本紙に紹介したい図書館の取組みなどありましたら、お知らせいただけます。幸いです。

平成二十年八月三十一日
 〒七〇〇一〇八二三
 岡山市丸の内二一六―三〇
 岡山県立図書館
 メディア・協力課 図書館協力班内
 岡山県図書館協会
 会長 西山 猛
 (〇八六) 一三四―一二六九